

労働移動における性差： ジェンダー統計の視点から (要旨)

伊佐勝秀 (西南学院大学経済学部)

本稿では、『学校基本調査』の都道府県別の時系列データを元に、新規高卒者の県外就職動向を男女別に分析する。主な事実発見として、まず横断面で見ると一貫して男子のほうが女子より県外就職率が高く、移動範囲も広く、また移動距離も長い。その意味で、男女間格差が存在する。しかし時系列的には、県外就職率・移動範囲・移動距離共に、男女とも低下傾向にある。

こうした男女差の要因として、性比や少子化、進学率の上昇のような人口学的要因、有効求人倍率や初任給の地域間格差などの労働市場的要因、工場の海外移転による女子の働き口の減少や特定地域での産業空洞化のような労働需要的要因、男女間での移動性向の違いなどが考えられる。

本稿の事実発見は、新規高卒者の県外就職を支援する際、男女で異なる政策が必要であるという政策的含意を示唆している。

今後の研究課題としては、県外就職率等に関する変動要因についての厳密な分析や都道府県毎の県外就職率等の動向の分析、大学生や一般求職者など、新規高卒者以外の求職者の県外就職の動向の分析が挙げられる。